2022 年度第 2 回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

◇日 時：2022 年 7 月 25 日（月）15：00 から 17：20

◇場 所：町田市庁舎 2 階 会議室 2-3・2-4 及び リモート開催

◇出席者

委 員：山下委員（会長）、江尻委員（副会長）、篠木委員、宮脇委員、富岡委員、鈴木（悟）委員、山崎委員、高橋委員、大平委員、前田委員

町田市：環境資源部長、循環型施設担当部長、環境政策課長、環境政策課温暖化対策担当課長、環境共生課長、ごみ収集課ごみ相談担当課長、循環型施設管理課長、循環型施設整備課長 外

◇傍聴者：なし

<次 第>

1. 報告

ごみ量の推移と第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について

2. 議題

(1) 2021 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について

(2) 「第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2021 年度・2022 年度事業計画についての意見に対する市の回答の説明

3. その他

(1) 「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」の結果について

(2) 町田市バイオエネルギーセンターで発生した火災について

<資 料>

資 料 1：ごみ量の推移と第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況

資 料 2-1：2021 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について（報告）（案）

資 料 2-2：評価シート集計表

資 料 3-1：第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン評価方法の概要

資 料 3-2：2021 年度第 2 回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

資 料 4：「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」の結果について

資 料 5：電池（小型充電式・ボタン型）回収方法のお知らせ

参考資料 1：2022 年度第 1 回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

1. 報告

ごみ量の推移と第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について

<資料1：ごみ量の推移と第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について、環境政策課から説明>

《意見》

委 員：集団回収量がここ数年で減少している原因は何か。価格が安くなって業者が継続できないことや自治会・町内会の人手不足などが原因か。

環境政策課：協力頂いている団体数や品目数が少なくなっている。少しでも資源化できる量を増やしていけるように地域の方と相談していきたいと考えている。

委 員：9ページの容器包装プラスチックの量について、町田市の一部地域では分別収集をしていると思うが、分別収集している量を含まず燃やせるごみ・燃やせないごみとを混合収集しただけの量か。

環境政策課：9ページの資料は資源化していない量を記載しているため、こちらでは基準年度から減少になっている。資料2ページの資源とごみの内訳の容器包装プラスチックのうち、2021年度は828tという数字は過去の集計方法と少し異なり、今までは資源化されている量を記載していたが、2021年度は収集した量である。この828tのうち資源化している量は663tで、資源化は進んでいる状況である。

会 長：2ページの表の話で、2021年度から容器包装プラスチックの数字の取り方が変わったということか。であれば、経年で見たほうが良い数字なので、変えるのであれば過去に遡って変えるか、そのままにしておくかどちらかにした方が良い。

環境政策課：今後は、過去の分も参考として収集量など記載できれば記載していく。

委 員：分別収集を全域に拡大する予定はどうなっているか。

環境政策課：現在、ごみの資源化施設の建設が遅れているが、2025年度に施設完成の予定となっている。2026年度頃から全域で収集することを検討している。

委 員：5ページの金属類・木質家具類等の施設内資源化量が減少したのは、施設の工事が要因か。

循環型施設管理課：そのとおり。古い工場から新しい工場への移行中は、十分に資源化できない期間が生じ、施設内資源化量が減少した。新しい工場での運営が始まったので、資源化を進めたいと考えている。

委 員：容器包装プラスチックの削減量は1,750tで、年間で回収されているペットボトル・プラスチックの同等の数字になる。2019年度と比較しても回収量は増えていないにもかかわらず、約1年分のペットボトル・プラ

ックの量が減少していることになるが、これはどういうことか。

環境政策課：2025年度までに容器包装プラスチックのごみとなっているものを1,200t減らすという目標となっており、組成調査に基づく推定ではあるが1,765t減っている。計画に対して定めた目標をさらにすすめているという現状である。ペットボトルはこの中に含まれてなく、容器包装プラスチックのうち、軟質のプラスチックにはレジ袋が含まれている。

委員：レジ袋が有料となりビニールの消費量が減ったことで、ごみから出てくるビニールが減ったということか。1,765t減っていることは、本来であれば収集分に加算されるのが考え方としてあるが、収集分が400tくらいしか増えていない。プラスチックについて、昨年と比べて消費者の利用が減っているのか、有料化によって使用が減っているのか、業者がスーパーで回収していることによって減ったのか、市役所として1,300t減った理由を知りたい。

環境政策課：2ページの数値は実際にごみとして集めた容器包装プラスチックの実質の量となる。9ページはある一定の地区のごみ200kgを組成調査によって率で計算した数値となっているため、2ページの表と9ページの表はリンクしていない。

会長：そのうえで、不燃・可燃に含まれている容器包装プラスチックが減った原因は市としてどう想定しているか、回答してほしい。

環境政策課：レジ袋の有料化の影響もあると思うが、全体的に容器包装プラスチックの使用量が減り、捨てられている量も減っていると思われる。

委員：8ページの生ごみの量について、燃やせないごみに生ごみが含まれているということか。

環境政策課：微量ではあるが、0.05%くらいは入っている。

委員：生ごみが増えた理由として、緊急事態宣言のことを記載しているがこれはエビデンスがあるのか。

環境政策課：明確な根拠はないが、事業系のごみが減っている一方で、家で食事をする際の調理くずなどが増えた想定としている。以上のことから、緊急事態宣言の日数を参考に記載している。

委員：6ページの、組成に占めるプラスチックの割合が増えたという記述があるが、先ほど容器包装プラスチックが減ったという報告があったので、製品プラスチックがかなり増えたということか。

環境政策課：ピット内での組成調査のためバラつきがある数値ではあるが、数値として2019年度は約15%に対して約17%となり1.6ポイント上がった。一方で繊維くずは2019年度が約4%でかなり少なく、対して約11%と増えている。

会長：確認だが、異なる組成調査の数値が根拠となっているということか。

環境政策課：そのとおり。本件はピット内での組成調査、これまで話していたものは

一定の区域から収集したごみの組成調査の結果である。

会 長：今後、両方がどのくらい組成が違うのか分かる資料があると良いので、検討してください。

2. 議題

(1) 2021年度第2次一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について

<資料2-1：2021年度第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について(報告)(案)、資料2-2：評価シート集計表について、環境政策課から説明>
《意見》

会 長：基本方針1の評価についてみなさんの評価平均はBだが、質問・意見等はあるか。

(なし)

意見等なしのため原案どおり評価はBとする。

基本方針2についてみなさんの評価平均はBだが意見はあるか。

(なし)

意見なしのため評価はBとする。

基本方針3についてみなさんの評価平均はBだが、意見はあるか。

委 員：ごみ量を減らすとごみ処理費用が抑えられ、利益も増えるので、企業は努力したと考えられる。企業として、こういうことをするとごみの減量や資源回収がうまくいく、と町田市がすすめていくと企業全体が同じような方向に進んで横展開していくと思う。評価Cが多い理由は、町田市からの情報発信が少ないことだと思う。

会 長：今後の課題に加筆した方が良いのか。市から事業者への情報発信などをより一層促進した方が良いという文案を追加するのはいかがか。

委 員：賛成である。平均をとるため全ての総合評価がBになるが、Cの部分では、Aの部分では、など強弱つけて追加して書いた方が良いかと思う。

会 長：そうすると同じBではないという評価になる。追加で意見なければ、基本方針3は、今後の課題について市からの情報発信を強化するというのを追加し、評価はBとする。

会 長：基本方針4について意見はあるか。

委 員：焼却によるCO₂の排出量だけを捉えるのではなく火力発電でもCO₂は出るので、ごみの焼却による発電の捉え方をCO₂が出るから悪いというのではなくて、火力発電に代替できるという捉え方をすれば、燃えるごみの焼却に対する考え方も変わると思う。そういう視点がほしいがいかがか。

循環型施設管理課：CO₂の考え方の一つとして、紙や木などCO₂を吸収して生成したものを燃すことでCO₂の発生はあるが、最初に吸収している分があるため相殺になる、というカーボンニュートラルという考え方がある。もう

一つは、実量として燃やした時にどれだけCO₂が発生したかのカウントがある。プラスチックや繊維類が増えたことによって発生するCO₂が一番きいてくる。そのため、プラスチックを資源化に回して焼却からは減らしていきたい。発生した発電量が他の火力発電に代替するため、良いものであるという反対側の考え方になる。ごみになるものをつくらない、燃やさない、埋め立てないという町田市の基本方針からすると燃やさない方へシフトしていきたい。ご意見として承り、今後どう整理していくか検討していきたい。

会 長：評価を変更するような意見ではない、といことで良いか。
委 員：良い。

委 員：バイオエネルギーセンターでのバイオガス発電はどのような捉え方をしているのか。

循環型施設管理課：生ごみのバイオガス化施設は東日本では初めてで、一般廃棄物の処理施設と併設しているのがバイオエネルギーセンターだが、生ごみを資源化する目標をずっと掲げていた。今まで注力してきたのは家庭をはじめとしたコンポストであり、現在も継続しているところである。全体から発生する生ごみの量に対して、多くを資源化する目標を到達するために、生ごみをバイオガス化のために機械で選別して、資源化していくことをバイオエネルギーセンターで実現した。有機物の発電量と有機物ではないゴムやプラスチックなど焼却して発電した分と分離されて計上している。それが買い取り価格に影響している。バイオガス化施設では全部有機物の発酵によるガスを燃料としている。全量がバイオエネルギーのため、焼却炉の蒸気で発電するよりも高価格で買い取りして頂いているということは、社会的にバイオガスによる発電は評価して頂いていると考えている。

会 長：評価を変更するような意見ではない、といことで良いか。基本方針4も評価Bとする。続いて基本方針5について意見はあるか。
(意見なし)
意見なしのため原案どおり評価はBとする。事務局は修正した報告書をまとめておいておくこと。

(2)「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2021年度・2022年度事業計画についての意見に対する市の回答の説明

<資料3—2：事業計画に係る意見及び回答について、環境政策課・循環型施設管理課・循環型施設整備課・ごみ収集課から説明>

会 長：基本方針3のペーパーレス化・デジタル化の推進を求める意見に対して、

回答が、事業計画へ「職員に対しての啓発を実施」を追加するとなっている。意見に対して趣旨がずれてしまう印象を持ったため、違う表現に変えるのはどうか。

環境政策課：紙削減が出来ている部署もあるので、有効事例として各部署へ展開するような内容とすることを考える。

委員：プラ新法では、容器包装プラスチックと製品プラスチックを市町村が一括回収しても、指定法人に委託できると理解している。町田市は今まで容器包装プラスチックを分別収集してきた。プラ新法に基づいて混合収集してそれを指定法人に再資源化していくのか、それとも従来の分別収集を継続していくのか、市の考えが決まっていれば聞きたい。

循環型施設整備課：検討中である。収集体制・回収方法が決まり次第、方針をお伝えする。

委員：基本方針5にある「まちピカ」アプリの存在を初めて知った。不法投棄等の通報もできるようだが、ダウンロード数はどのくらいか。

環境政策課：ダウンロード数は2022年3月時点で6,994件。「まちピカ」は道路の不具合を、スマホを利用してお知らせするアプリとして始まっている。

委員：アプリは運用方法を間違えると機能しないが、こういうアプリを使用して市民の方々から協力頂いて使えば、具体的な対応策を町田市もとりやすくなると思う。アプリがあるだけではなく、どういう風に運用していければ良いか市民の方々との話し合いの場も是非つくって頂ければと思う。

委員：「まちピカ」は道路の欠陥箇所を市に直接通報するアプリで、かなりの人が利用している。自治会・町内会経由で説明はあった。不法投棄の通報もできることは知らなかった。

委員：「まちピカ」で不法投棄、自転車の不法投棄など通報すると、市がすぐに対応してくれる。

3. その他

(1) 「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」の結果について

<資料4：「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」の結果について、環境政策課から説明>

委員：収集の新システム導入について、数値上は良いが、紙おむつ以外にも考えているのか。

ごみ収集課：2026年度を目標に新たな収集体制の構築を進めている。タブレット端末を収集車に載せて収集に回り、どういったコースでどういったごみを収集しているのか、さらにこういうコースだったら距離が短くなる、など効率的な収集を図るために、2021年度は実証実験として、2022年度は業務委託として計画をしている。この成果が2026年度の見直しに反映できるよ

うに今後進める。

(2) 町田市バイオエネルギーセンターでの発生した火災について

<スライドにて、循環型施設管理課から説明>

委員：施設を見学した。最新の施設だが、熱感知センサーは設置していないのか。

循環型施設整備課：熱や炎を検知するセンサーは各所についており、場所による。熱を感知するエリアと炎を感知するエリアがある。最初の火災はごみピットの深い位置で発火し、表面に炎が見えなかったため、発煙からの確認になったと推定している。

委員：リチウム電池などの回収店がどこなのか、市に問い合わせるとHPを見てくださいとアナウンスされて終わることが多い。HPを見てくださいだけでなく、お店がどこなのかあわせて情報提供してほしい。また、お店によっては回収ボックスがどこにあるかわかりづらいところもあるので、店への指導もお願いしたい。

委員：小型充電式電池の出し方が面倒である。そのため、つい不燃ごみに入れている人が多いのではないか。電池だけでなく小型電子機器も回収するなど、市民の利便性を考えて回収してほしい。

会長：電池の回収を始めたということで、同じルートにのせて回収できそうなものがあるか、引き続き検討をお願いしたい。7月に前倒しで回収を始めたということで、その後どのくらい回収されているのかフォローアップをして頂きたい。

ごみ収集課：町田市は集積所の4割ほどが道路上にある。大きなものを道路上に大量に出されてしまうと、通行の障害に繋がる可能性がある。戸別収集等が始まったタイミングで回収方法を検討する。

環境資源部長：本日は貴重なご意見ありがとうございました。資料について、基準になるデータがページ数によって違うことがあり、今後より分かりやすくなるよう改善させて頂く。評価において個々の採点でCが一定数あるものの、結果として平均ではBとなる点だが、Bマイナスの評価であると思っている。ただCがあるということは大事であると思うので、課題を持ちながらCについてはどういう風にクリアできるか検討していきたい。市民の方々との連携は難しいが、委員の方からご提案頂いた通り、いろいろなテーマがあるなか、具体的に事業者との連携の機会を持ちながら、来年度から本格稼働になるよう今年度は検討を行う。また現在、効率的なごみ収集

体制のためにタブレットを使用して実証しているが、座間市ではすでに採用して実施している。収集職員が、空いた時間で不法投棄や道路の陥没等の写真を撮ってすぐに対応しているので、活用していきたい。そして、7月から小型充電式電池の行政回収を始め、初日は一年分の電池が集まった。そのうちお願いどおりに絶縁テープが貼ってあるのは4割ほどだった。どこまで公金を投与して行うべきなのか、市民・事業者の方に責任をどこまで負って頂くのか、そこがテーマかと思う。今年度の審議会は本日が最終回となる。2年間、全4回に渡りご協力頂きありがとうございました。今後につきましても、今日のようにご意見を頂けるとそれに向かって応えていけるよう努力したいと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

会 長：終了宣言